天

演習林の山菜の販売を
始めました

除雪後も、しばらくは、2〜3mの
雪の壁が残ります

木工品コーナーを
新設しました

今年度も実習シーズンに突入です

地域の文化祭に
参加しました

新潟大学演習林ニュースレター

Niigata University Forest Newsletter

新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター 佐渡ステーション

第２号　2015年６月

2015年山開き

　演習林の山開きを今年も年度初めの4月24、25日に開催しました。山開きでは、実習や山での作業の無事を祈るとともに、今年度も皆様によろしくお願いしますという意味も含め、関係者の方を招き、夕食を兼ねた懇親会や演習林のお披露目を行っています。

　懇親会には、フィールド科学教育研究センターの山田センター長はじめ、佐渡ステーション周辺の集落の方、新潟大学の関係者など、多くの方が参加して下さいました。沢山の山の幸、海の幸を囲み、アットホームな感じで夜遅くまで盛り上がりました。

食堂が満席になるほど盛況だった懇親会

　翌日は快晴の中、演習林の散策を行いました。この時期、演習林の高標高では雪解けしていない箇所も多いのですが、あらかじめ、重機で除雪した林道を車で登ることができました。林内の下層植生は未だ雪の下で、この時期しか見ることのできない林内の景色を楽しんでいただきました。皆様、今年度も佐渡ステーションをよろしくお願いいたします。

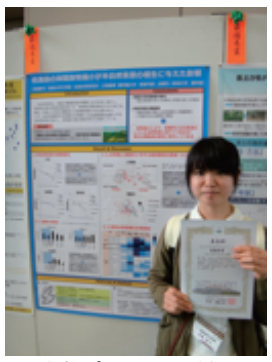
残雪の中の大王杉

第62回日本生態学会（in 鹿児島）参加報告

　2015年3月18日〜22日、鹿児島大学郡元キャンパスで第62回日本生態学会大会が開催されました（参加者1700人以上）。日本生態学会は約4,200人の会員数で、日本の自然科学系の学会の中でも有数の学会です。今年度、佐渡研究室からは、教員3名、学生3名の計6名が参加しました。大会中は、精力的にポスター発表や集会への参加を行いました。

　ポスター発表の部では、佐渡研究室の宮島伸子さんが群落・遷移・更新部門で最優秀を受賞しました。学部、修士の三年間の集大成である本学会の発表で有終の美を飾りました！

※宮島さんの研究内容は、新潟大学演習林ニュースレター 第1号(2015年１月)で紹介しております。
　ご興味のある方は、佐渡ステーションホームページよりダウンロードをお願いします。


受賞ポスターの前で
笑顔をみせる宮島さん

トキも植物も、持って帰らないで!!

　“トキは持って帰らないでね”という内容のトートバッグが佐渡汽船の売店で売られていました。トキだけではありません。佐渡は、海に囲まれ、大型の植食性動物が生息していないだけではなく、人による植物の盗掘などが本州と比較して少なかったことがこの豊かで歴史の深い生態系を維持してきた要因とえいます。しかしながら「きれいだから、たくさんあるから、根ごと持って帰って植えよう・・・」という安易な人の行為が、これからの佐渡の自然を衰退させる大きな原因になります（山菜など、地下茎を残したまま、つまり次年度の生育を妨げない程度に、植物を持ち帰るのはありだと思います）。佐渡の自然を守るために、「私一人だから持って帰っても大丈夫」を捨てて、本来の自然の中で生き物の生きざまを楽しみましょう！

（助教　阿部晴恵）

本州では、盗掘などにより減少した
オオミスミソウ

地

天

シリーズ

佐渡の動植物②

日本初の学名

ヤマトグサ

ヤマトグサ（*Theligonum japonicum*）は、1884年高知県で採集され、牧野富太郎博士が日本人として初めて学名をつけた記念すべき植物として大和草と命名された。日本固有種の多年生草本で茎は高さ20cmぐらいで片側に毛がある。葉は対生し、花が咲いたのちに、茎の下部の側枝が伸びて地を這い、先に新芽をつくる。雌雄同株で花弁のない雌花と雄花をつける。雄花は多数の15-20個ほどの雄しべが垂れ下がる。雌花はU字状の花柱だけが目立つ。

北限は山形県で、本州の関東地方以西から四国、九州に点在分布する。佐渡島には大佐渡、小佐渡ともに広く分布しており、低標高から山頂付近まで普通に見られる。演習林の林床にも広く分布している。しかし、本州側の新潟・福島・石川・富山・福井・長野には全く分布していないことから、植生学上、非常に興味深い。私が初めて佐渡に来た時に、学生と植生調査を行っていて、この植物に出会った。真夏ですでに花は残っておらず、最初はヘクソカズラの小型かと思った。葉の匂いを嗅いでみても、屁の臭いはせずに頭を悩ませたことが懐かしい。

（教授　崎尾均）

演習林の現場より②

学生に食事を作り続けて・・・

初日の夕食は、歓迎のご馳走が並びます

実習の際、学生たちに提供する食事に定評のある佐渡ステーション。今回は、長年、佐渡ステーションで食事を作り続けている施設管理担当の川嶋一二三さんにインタビューしました。

―食事を作る際に心がけている事は？―

皆さんに元気に実習を行ってもらえるように、食中毒の予防を第一に考えています。そのために、厨房を清潔に保ち、食材管理などに気をつけています。また、遠方より佐渡に来て頂いているので、佐渡の食材を使い、郷土料理（おさしみ、にしめ、いごねり、とちもちなど）を中心に、献立を立てています。

―食事を作る際に大変な事は？―

多数の学生さんが参加する実習では、調理する食事量も多くなり、１人では賄いきれなくなることもあります。そのため、皆さんが満足する食事を提供できているか、もどかしい思いになる時もあります。また、佐渡ステーションの近所には大型の販売店が無ため、大量かつ納得のいく食材を揃える事が一苦労です。

―食事を作っていて、うれしい事は？―

勤務して26年目になりますが、やはり、自分の作った食事を学生さん達がおいしいと言って感動し、笑顔になってくれるのが一番うれしいです。わざわざ、厨房まで食事がおいしかったと言いに来てくれる学生さんもおり、励みになります。これからも食事を通じた出会いや郷土料理を大切にし、何度でも佐渡に来たくなる、きっかけになれればと思います。

（インタビュイー：非常勤職員　川嶋一二三）

お知らせ

・公開林間実習2015
日時：8月22日（土）、23日（日）1泊2日
場所：佐渡ステーション（佐渡市小田94－2）
対象：一般の方　　※申し込み方法などの詳細については、
参加費：5,500円　　6月18日よりホームページ等で公開予定

・新潟大学佐渡演習林60周年記念式典
日時：10月３日(土)13時～
場所：あいぽーと佐渡（佐渡市両津夷384－11）
対象：演習林関係者　　※申し込み方法などの詳細については、
参加費無料　　8月上旬よりホームページ等で公開予定

平成27年度共同利用実習募集中!

佐渡ステーションでは、共同利用実習の募集や演習林での調査・研究の受け入れを随時行っています。お気軽にご相談ください。

実習の様子などをブログで紹介しています
佐渡研究室　検索

編集後記：
佐渡ステーションでは、今年度も実習シーズンが始まりました。ホームページやブログでも実習の紹介や佐渡ゼミの告知をしておりますので、ぜひご覧ください。　（特任助手　菅尚子）

新潟大学演習林ニュースレター
編集・発行：新潟大学農学部フィールド科学教育研究センター 佐渡ステーション
〒952-2206 新潟県佐渡市小田94-2
tel: 0259-78-2613　fax: 0259-78-2929　e-mail: sadoken2011@gmail.com
ホームページ　http://www.agr.niigata-u.ac.jp/fc/sado_html/sado_index.html

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

地